

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

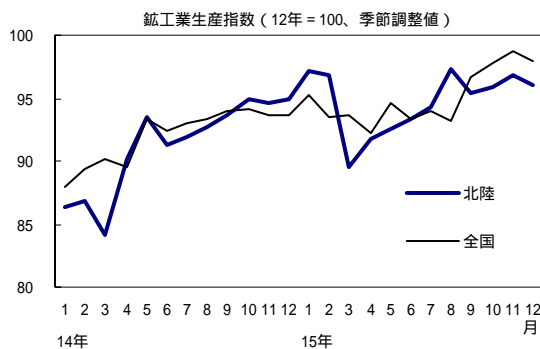
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 11 月）	今回（平成 16 年 2 月）	
個人消費	やや弱含み	おおむね横ばい	
住宅建設	増加	減少	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

一般機械は、建設機械が米国向け輸出を中心に好調であるものの、金属加工機械や繊維機械が高操業ながらも頭打ちとなっている。電子部品・デバイスは、デジタル家電向けや携帯電話向け等の半導体集積回路を中心とした増加が続いている。化学は、医薬品がOEM（相手先商標生産）や後発医薬品の生産等で引き続き堅調に推移している。繊維は、衣料品において内需は引き続き低調であるものの、外需は中国向け高付加価値製品を中心に持ち直しの兆しがみられるほか、非衣料品においてカーシートやエアバッグ等の自動車内装材が増加している。金属製品は、アルミ建材の住宅用がリフォーム案件等で増加しているものの、ビル用は首都圏のビル建築が一巡していること等から減少傾向にある。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	14.8	21.6	1.8	-	-
電子部品・デバイス	13.8	1.9	7.0	-	-
化学	12.7	4.8	1.3	-	-
繊維	12.4	0.2	1.3	-	-
金属製品	10.6	0.9	2.9	-	-
鉱工業	100.0	3.3	0.5	-	-

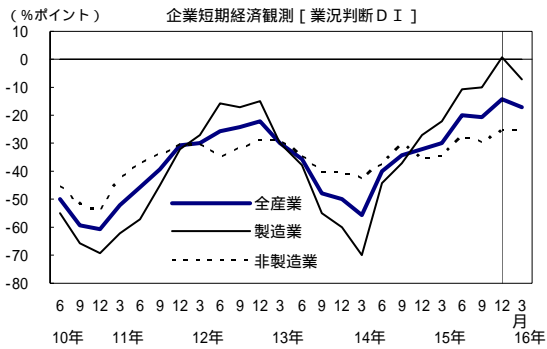
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 10~12月期は速報値。

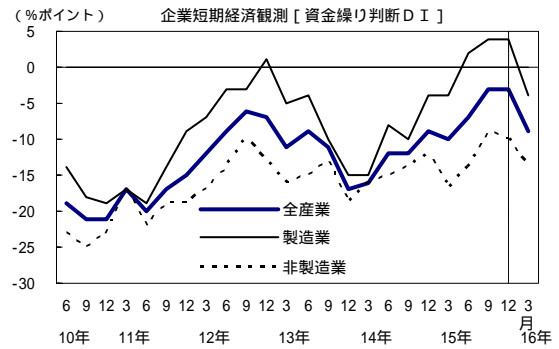
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(備考) 平成 15 年 12 月の北陸は速報値。

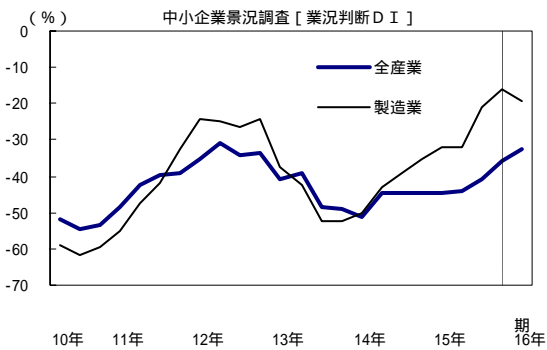
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。
中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「住宅関連は変わらないが、産業資材ではディーゼル規制の問題で車両分野に少し動きが出てきた (プラスチック製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

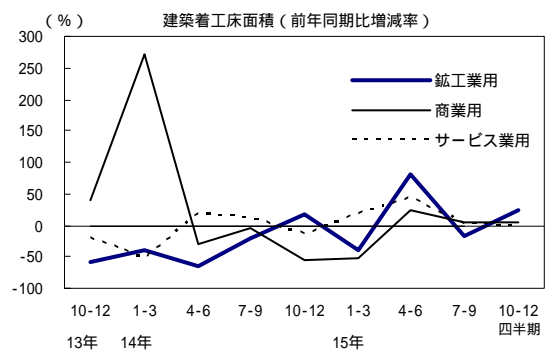
(3) 15年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	6.8	1.9 (7.6)
製造業	13.2	2.8 (9.2)
非製造業	15.9	8.0 (5.6)

(備考) () は前回 (9月) 調査比修正率。



(6) 北陸

2. 需要の動向

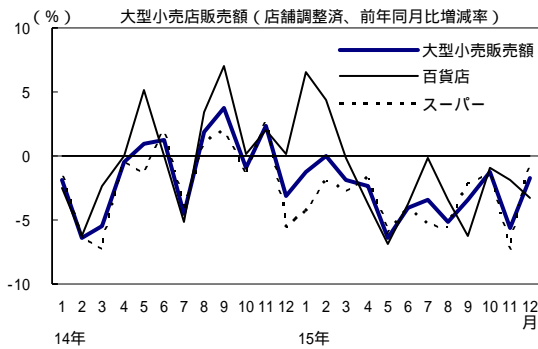
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、10月は気温が低めの日が多かったこと等から主力の婦人・子供服に動きがみられたものの、衣料品全体では前年同月を下回った。11月は気温が高めに推移したことから主力の冬物衣料が婦人服を中心に振るわず、衣料品全体では引き続き前年同月を下回ったものの、飲食料品は歳暮セールの前倒し効果等もあり、8か月ぶりに前年同月を上回った。12月も引き続き気温が高めに推移したことから冬物衣料が不振で、飲食料品も前年同月比マイナスに転じたため、全体では10か月連続して前年を下回った。スーパーは、衣料品が10月に11か月ぶりに前年を上回るなどの動きはあったものの、全体では13か月連続で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

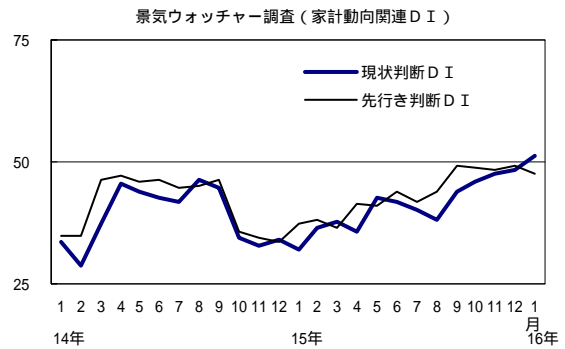
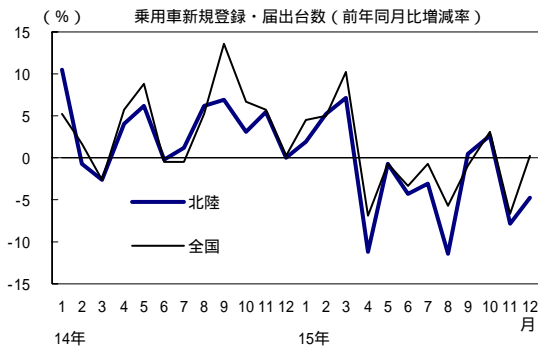
「年始の売上は前年比3%増加しているが、特に年賀ギフトが同10%増加し、福袋が順調に売れた。来客数は10%増加したが、客単価は7%ダウンした。22日からの大雪のため、トータルではまずまずである(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	1.1	4.3	4.0	2.8
百貨店	3.3	4.9	2.9	2.2
スーパー	3.2	4.1	4.5	3.1
乗用車	5.7	5.3	3.9	3.2
景気ウォッチャー	35.5	40.1	40.7	47.3

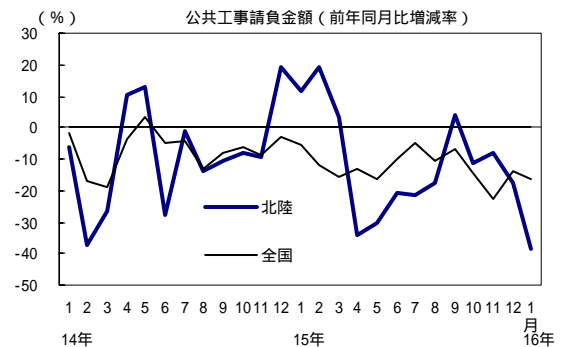
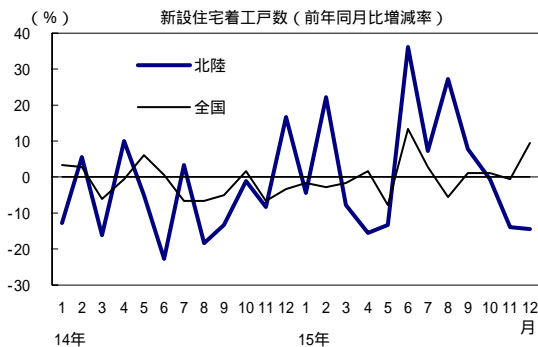
(備考) 1 大型小売店販売額は店舗調整済。15年10-12月期は速報値。
2 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

給与が前年をわずかに上回ったものの、貸家が前年を大きく下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

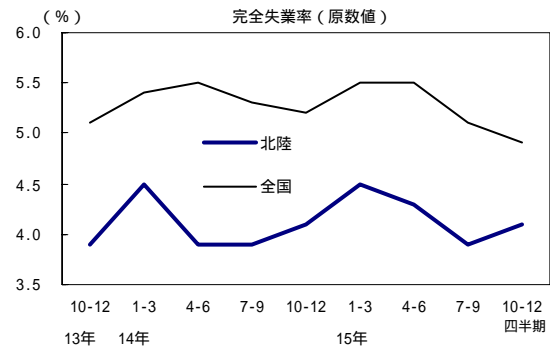
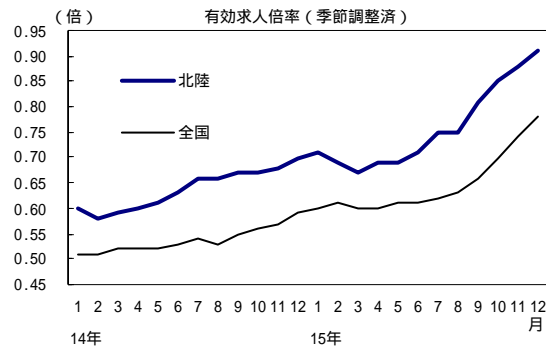


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は大きく上昇している。完全失業率は前年同期と同水準である。



景気ウォッチャー調査 (1月調査)[雇用関連 (現状判断)]

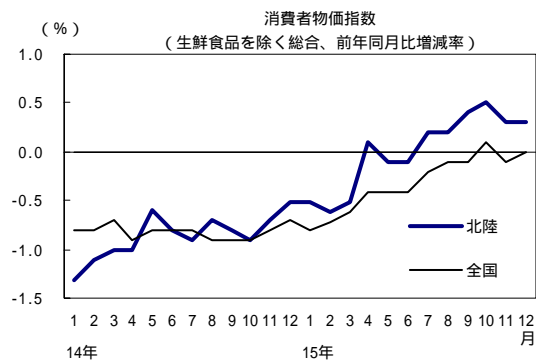
「求人数は増加傾向にあるが、やはり派遣、請負、パートなど不安定な求人募集が多い。一方、求職者は常用を探している (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	16年1月
倒産件数	116	100	113	84	28
(前年比)	8.7	13.8	23.6	26.3	30.0
負債総額	350	202	468	295	78
(前年比)	23.6	38.3	27.8	7.0	61.4



景気ウォッチャー調査 (1月調査)[合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・非ウールコートなど防寒用品が12月に比べて非常に良くなっている。また、カシミアなどの高額商品がクリアランスで安くなったため動き出し、売上はやや好調である (百貨店)

<先行き>

- ・デジタル家電向けの製品が増加している。今後製品価格が下がるため、数量的にはますます増加する (電気機械器具製造業)

